

**<実施予定のプロジェクト> 先住民族の残された聖域、原生林が危ない**  
**－ 急がれるブハガン、プロコン地区の生活と森を守る事業 －**



焼け焦げた樹木が散見されるブハガン村山腹

PPF 事務所から約 2 時間、車が急に止まったので前方を覗くと、大きな丸太が道をふさぎ、銃を持った若者が何か言っています。これから先は私有地だから通るなどということのようです。

先祖伝来の土地保証(CADC)を受けた土地なのに、国会議員にコネがある地元の有力者がコーヒープランテーションを始めたと言きました。この丸太がその農場入り口でした。

通り抜けた先にある原生林を守る事業地視察のために、バラングイキャプテンの許可を得ていると説明しても通じません。U ターンして自宅にいたキャプテンを車に乗せ、交渉を再開。ようやく丸太が取り除かれ車が動き出しました。40 分間のロスでした。

人里離れており、住民も少なかったブハガンの人口が、ここ数年のうちに急増し、50 世帯ほどになりました。同じドグマ山系でもアクセスの比較的よい地域に住んでいたチボリやマノボが、入植者や農園開発業者に土地を奪われ、身内を頼って移り住んできたからです。

一番近い学校(ブラクール小学校)まで歩いて 3 時間というブハガン。原生林が残り、サルやそれを狙う大鷲の狩を見ることができません。野生動物の宝庫と言われているこの地域が、他に生活手段を持たない先住民族の焼畑で危機にさらされています。森が壊滅しないうちに、隣接のプロコン地区を含めて 75ha でアグロフォレストリーを核とする事業を予定しています。(緑の募金公募事業申請中)



相田、山崎訪問時の 5 月、持続可能な農業とアグロフォレストリの説明に集まった住民

**<ビラーンの伝統織物・ナバルタビ振興事業>**  
**－ ナバルタビ工房建設プロジェクト －**



ナバルタビのスカートで踊るビラーン民族の少女(キブラワン・ビラーンフェスティバルで:相田撮影)

去る 6 月に南ダバオ州キブラワンで開催された第 4 回ビラーンフェスティバルに参加した元奨学生スヌーリアから、「アムグオのナバルタビが評価されて嬉しい。祭のあとで 16 のコミュニティーの首長からシャツやズボンの注文を受けた」という報告がありました。このフェスティバルには、コロナダに駐在の相田も見に行きました。

そのアムグオのナバルタビ工房が 5 月の突風で大破したため、HANDS として織りの家建設プロジェクトを支援することにしました。

工房(6m×14m、経費 20 万円)はすべて竹製(屋根はGIシート)で、来訪者の宿泊もできる併設の事務所は、下部のみコンクリート仕様だと考えています。日本でも会員や市民の皆さんから、帯にしたいという注文を受けており、その完成が待たれます。

**イベント報告**

45号でご案内したイベントは、いずれも大勢の方がティナラク織りの製品を手に取り、現地 の状況について関心をもっていただくことができました。売上を報告します。

- カトリック藤ヶ丘教会バザー / 2006 年 5 月 21 日 / 52,000 円
- カトリック茅ヶ崎教会バザー / 2006 年 5 月 28 日 / 34,310 円
- あーすフェスタ神奈川 2006 / 2006 年 6 月 3,4 日 / 40,800 円
- アジア&アフリカ布フェア / 2006 年 6 月 4 日 / 7,300 円

